

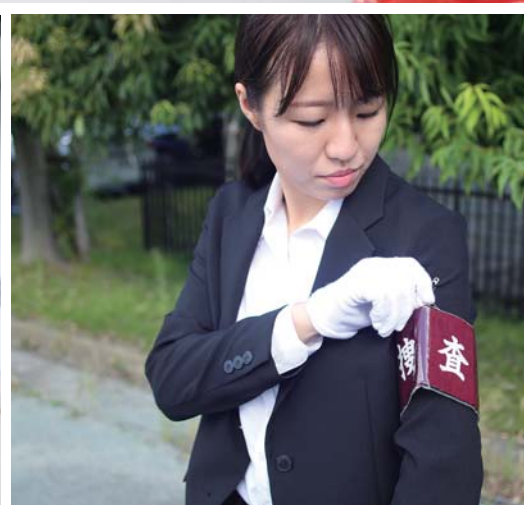


笑顔が
そばに
ある仕事



山形県警察 採用
YAMAGATA POLICE 令和7年度





守りたいを仕事に

部活に打ち込むこと。昨日あった出来事で友達と一緒に笑うこと。
家に帰って「ただいま」と言えること。家族と一緒にご飯を食べること。
いつも通りの日常は、平穏な生活の中で成り立っている。
私たちの仕事は、そんな日常を守ること。
皆が前を向いて生きられるように。気持ちは一つ。守りたいのは、人、暮らし、山形。

「人」の「手」で成り立つ仕事だからこそ、ここには、あなたにしかできない仕事がある。



令和7年山形県警察運営の指針 県民の期待と信頼に応える力強い警察

～県民の安全安心の確保～
～複雑化する社会への的確な対応～

- 犯罪を予防するための取組の強化
- 重要・悪質な犯罪の検挙
- 交通事故の防止
- 情勢に即した警備諸対策

警察学校

支え合う仲間がいるから頑張れる!!

警察官は採用後、警察学校へ入校し、警察官として仕事をするために必要な知識や技能を修得する授業や訓練を行います。

また、寮生活を通じて、同期生との絆を深めることもできます。日々の訓練を同期生と切磋琢磨することで、自分が目指したい警察官の具体的な姿をイメージすることができるようになります。

卒業する頃には、「自分たちの手で山形を守る」という強い自覚を持てる警察官を育成する場が警察学校です。



優しさと強さ



高校1年のとき、テレビで女性警察官が一生懸命に犯人を捕まえる姿を見て、憧れを抱いたことが警察官を目指したきっかけです。一人暮らしの経験がなく警察学校の寮生活は不安もありましたが、同じ目標を持つ仲間と励まし合い、様々な経験を積んで成長につながっていると感じ、とても充実しています。

女性の視点をいかして優しさと強さを兼ね備えた警察官になりたいと思っています。



達成感が成長に



幼い頃、パトロール中の警察官を見かけて格好いいと感じたことや、落とし物を届けた際の警察官が優しく、そうした姿に憧れて警察官になりたいと思いました。

警察学校の授業や訓練は初めてのことがばかりで、うまくいかない時もありますが、同期生と相談しながら挑戦し、出来るようになった時はこれまでにない達成感がありました。こうした日々の達成感が成長につながっていると実感しています。



初任教養 ONE YEAR

4月



40km 強歩訓練



5月



校内駅伝大会

6月



山岳遭難救助訓練

7月



着衣泳法訓練



救急法 (検定)

8月



救助訓練

A 区分

B 区分

警察行政

修了式

ONE DAY



起床・点呼 朝食 6:00	朝礼 8:30	1時限目 9:00 10:20	2時限目 10:30 11:50	昼食・昼休 11:50 12:50	3時限目 12:50 14:10	4時限目 14:20 15:40	5時限目 15:50 17:10	夕食・入浴 自習 17:15	点呼 21:40	消灯 22:30
---------------------	------------	-----------------------	------------------------	-------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	----------------------	-------------	-------------

ONE WEEK

時限／曜日	月	火	水	木	金	土	日
1	無線通話 現場での情報伝達手段の一つが無線通話。無線従事者資格を取得し、通話のイロハを学びます。	犯罪鑑識 鑑識活動の基礎知識を学び、指紋や足跡などの資料を採取する方法を実践的に学びます。	職務質問 職務質問の法的根拠は何か、心構えや話術など基礎から実践的な技術まで学びます。	逮捕術 犯人を制圧できるよう実践的な訓練を実施します。繰り返し練習し技術を身に付けます。	訓育 警察官としての心構えや考え方を歴史、経験などを通じて学びます。	週休日	週休日
2	救急法 人を助けるには、方法を知ることが第一。現場でできる救命措置の基本を身に付けます。	市民応接 現場では警察官たる前に、一社会人として礼を尽くす。言葉遣いや礼儀など、当たり前を身に付けます。	柔・剣道 柔道と剣道のいずれか一方を選択し、履修します。教官が手解きすること、初心者でも初段取得に至ります。	職務倫理 警察職員としてあるべき姿など、県民の期待と信頼に応えるために必要なことを、事例を踏まえ検討し学びます。	文書作成 行政機関が作成する文書には、決まり事があります。用語の遣い方や文書の作成ルールを学びます。		
3	拳銃操法	刑事警察	交通警察	刑事訴訟法	憲法		
4	警備警察	生活安全警察	社会常識	刑法	点検教練		
5	地域警察	サイバー犯罪対策	警察行政法	PCネットワーク基礎	民法		

初任教養以外でも研修制度が充実

若手を育てる警察署の育成塾

警察署には若手警察官で構成される育成塾があり、実務能力の向上や人間性を高めるための様々な活動に取り組んでいます。ベテランから教養を受けるほか、地域のボランティア活動等を行っています。署員みんなで若手を見守り、育てています。

昇任時の教養

昇任する際は、それぞれの階級ごとに必要不可欠な知識・技能の修得を図ります。巡査部長・警部補に昇任する際は宮城県にある東北管区警察学校で、警部に昇任する際は東京都にある警察大学校で研修を受けます。全国の警察官と交流を深める機会にもなります。

専門教育

刑事や白バイ隊員、サイバー犯罪捜査官など各分野の専門家を育成するために、必要な知識と技能を身に付ける専門的な研修（専科）があります。

専門教育ってどういうものがありますか？

私は、白バイ隊員になるための専門教育研修として、白バイの適格者講習を受けました。専科では、300kg近いバイクを引き回したり、自ら倒して起こす練習や、バイクの特性を踏まえた基本操作のほか、専門的な知識、技術を学び、これまで以上に白バイ隊員になることへの憧れが強くなりました。

専科を通じて、求められる基準に対し、今の自分では差があることを自覚し、今ではバイクの知識を含め、より仕事に対する学びを深めたいと考ええるようになりました。

県警では白バイ専科を紹介する動画をYouTubeに掲載しています。ぜひ見てください!!



▲ YouTube

9月

10月

11月

12月

1月



短期課程卒業式



山寺マラソン



情操教育（陶芸）



蕎麦打ち



長期課程卒業式

卒業式

卒業式

地域警察

地域に溶け込み安全安心を守る。

地域住民の方に寄り添い 頼られる存在として

警察学校を卒業して、初めに配属されるのが警察署の交番です。ここでは、「お巡りさん」として住民の方々の生活に寄り添い、地域の安全安心を確保することが仕事の一つです。

地域警察のお巡りさんは、巡回連絡や落とし物の受理、地理案内など地域に密着した活動を担うほか、事件事故発生時の初動捜査や交通指導取締り、職務質問を通じた犯罪の未然防止と摘発など多岐にわたる仕事に当たります。そのことから、地域警察は警察官の基本とされています。

フィールドは、街を越えて。

地域警察の仕事の一つに、山岳遭難救助があり、当県では各警察署から選抜された警察官による山岳救助隊を組織しています。隊員は右ページにあるような通常業務のほか、自署管内の山岳パトロール、登山者や山小屋管理者に対する遭難防止広報、定期的な救助訓練などを行っています。自署管内で山岳遭難が発生した際には、警察署の中核となって捜索、救助活動を行うほか、応援派遣要請により管轄を越えて出動する場合があります。

仕事と やりがい

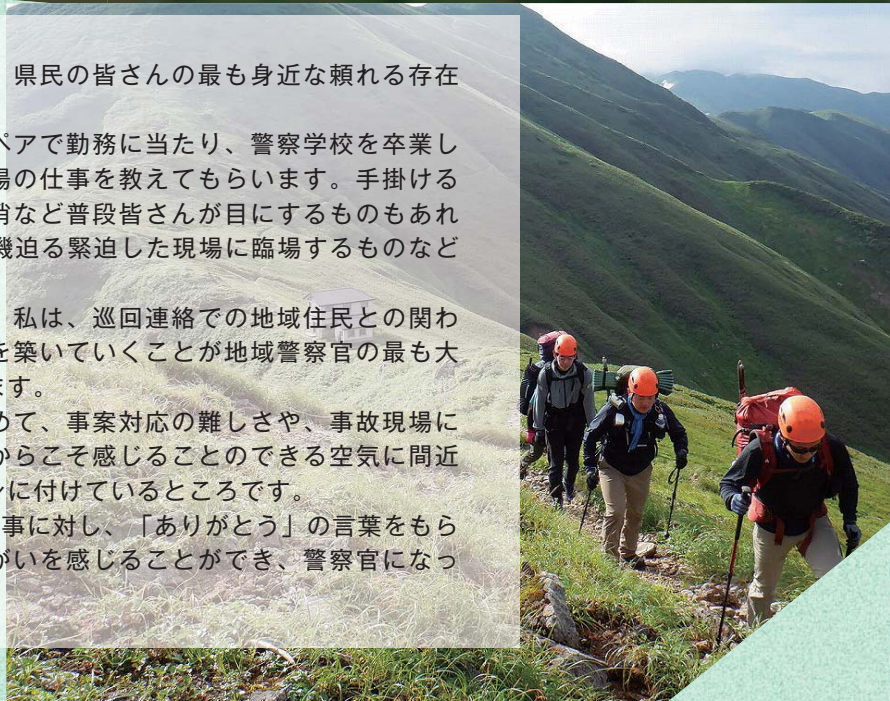
地域警察のお巡りさんは、県民の皆さんの最も身近な頼れる存在として活動しています。

基本的には、2人1組のペアで勤務に当たり、警察学校を卒業したばかりの頃は、一から現場の仕事を教えてもらいます。手掛ける仕事は、巡回連絡や交通立哨など普段皆さんが目にするものもあれば、110番通報を受けて危機迫る緊迫した現場に臨場するものなど様々です。

多種多様な業務の中でも、私は、巡回連絡での地域住民との関わり合いを通して、信頼関係を築いていくことが地域警察官の最も大きな魅力であると感じています。

私も交番に配属されて初めて、事案対応の難しさや、事故現場に漂う緊張感など、警察官だからこそ感じることでできる空気に関わり触れ、一つ一つの仕事を身に付けているところです。

そんな中、自分の担った仕事に対し、「ありがとう」の言葉をもらえた時は、この仕事にやりがいを感じることができ、警察官になって良かったなと思います。



交番勤務 (一例)

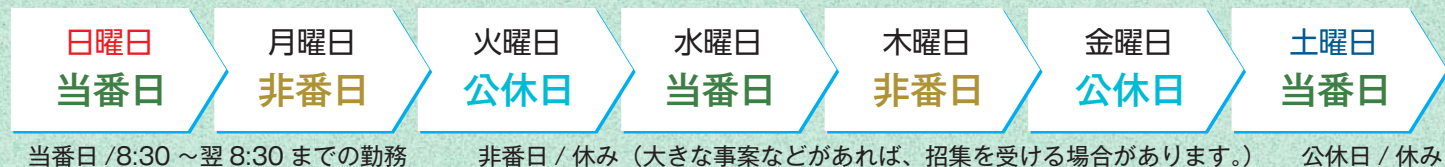
地域の治安を守るため、現場にいち早く駆けつける。

警察学校卒業後、まずは交番勤務から始まります。ベテラン警察官と一緒にペアを組んで県民の声に応えます。



三交替制勤務の魅力

交番勤務は、当番・非番・公休の三交替制勤務が基本となります。24時間勤務後の体をしっかりと休め、次の当番日に備えます。毎日勤務とは違い、非番を含め平日に連続した休みの時間が作れることでちょっとした遠出をしたり、家族との時間を作れることも魅力の一つです。



仕事を通して学ぶ。

巡回連絡では、担当する地区住民の方のご家庭を訪問し、特殊詐欺の被害状況やその対策等について防犯指導を行います。

以前、訪問した地域住民の方から、「これまで、知らない番号からの電話が来て不安でしたが、教えていただいた対策の留守番電話設定のおかげで詐欺等の被害に遭わずに過ごせています。」とお話いただくことができました。

私の防犯指導が、地域住民の方々に浸透していることを実感できた出来事でもあり、巡回連絡を通じた活動が犯罪の抑止につながることを改めて学ぶことができました。

非番・公休日でのリフレッシュ!!

私は、非番・公休日を利用して、趣味のカフェ巡りを楽しんでいます。平日に休みがあることで、普段は混んでいるようなお店でも、時間をかけずに利用できます。

時に緊張が走る仕事を担う反面、休日はほっと一息できるような自分なりのリフレッシュ方法を見つけることが仕事と私生活を充実させるコツだと思います。



生活安全警察

犯罪の起きにくい街づくりを。

いつもどおりの毎日をおくることができるように。

生活安全警察では、県民の日常生活の安全と平穏の確保を担います。ストーカーやDV、児童虐待などの被害から県民の生命・身体の安全を確保するため、自治体や関係機関と連携して活動しています。また、犯罪情勢の分析に基づく防犯情報等の発信、防犯協会等と連携した広報啓発活動、防犯ボランティアの活動支援など、県民の防犯力向上にも力を入れています。

このほか、不正アクセス等のサイバー事案や儲け話を装ってお金を集める悪質商法、廃棄物の不法投棄事犯など身近な生活に潜む犯罪を取り締まります。

犯罪抑止対策

県民が特殊詐欺の被害に遭わないために、日々変化・巧妙化する犯行手口を分析し、金融機関やコンビニエンスストア等の事業者と連携した被害防止対策を企画・展開しています。また、空き巣等の盗難被害を防ぐため、「防犯の基本は鍵かけ」等と呼び掛けています。

人身安全対策

ストーカーやDV、児童虐待などの私的な人間関係を背景とした事件の捜査が主な任務。ネット社会によるコミュニケーションの変化や対人関係の多様化から被害の実態がつかみづらく、事態が急展開するおそれがあります。重大事件に発展する前に被害者の不安に寄り添い、安全確保を第一とした捜査を展開するのが人身安全対策です。

通信指令

通信指令課では、県民からのSOSである110番通報を受理し、いち早く管轄する警察署へ指令を行います。そして指令を受けた警察官が直ちに現場へと向かい、様々な事案の初動対応に当たります。近年では、女性警察官も通信指令課で活躍しています。

生活経済・風俗事犯等の取締り

悪質な訪問販売業、ヤミ金融、違法風俗営業の摘発など、特別法という分類に定められる犯罪の捜査を担当します。違法行為に対する適用法令が多岐にわたり、社会の変化に応じて新たな犯行形態が生まれるなど、事件解決に結び付けるには専門的な知識が求められます。

サイバー犯罪対策・捜査・解析

近年、深刻化するサイバー空間における脅威に対し、官民一体となった対策を講じる必要があり、当県においても自治体等と連携した広報啓発などを実施しています。

コンピューターウイルスを利用した犯罪や不正アクセス事犯への捜査の舞台は、県内に留まらず、全国、海外に及んでいます。デジタル技術の活用が加速した今、より高度化するサイバー空間の脅威に対処するため、高い技術を持つ警察官が求められています。



現場の声



犯罪抑止対策係長

県民の防犯意識を高め、 犯罪の起きにくい社会をつくる

高齢者等を狙う詐欺被害や空き巣等の盗難被害、女性や子供に対する声掛け事案など、人々の平穏な暮らしを脅かす事案が日々発生しています。犯罪被害に遭わないためには、県民一人一人の防犯意識を高めることや、地域社会と協力して防犯活動に取り組むことが重要です。

そのため日々変化する犯罪情勢を分析して防犯情報を発信したり、防犯ボランティアの方々と連携したパトロール活動などを行っています。



サイバー犯罪
特捜係長

探究心を忘れない

インターネットがほとんどの人の生活に密接に関わるようになった昨今、様々な面で便利になった一方で、その便利さを悪用したサイバー犯罪が後を絶ちません。サイバー犯罪対策課では、そのような犯罪を検挙すると共に、新たな被害を防止すべく、日々進化するサイバー関連の技術、知識を研究しながら、事件捜査や防止対策を行っています。巧妙化する犯罪の手口に屈することなく、粘り強く捜査を進め、犯人検挙を目指しています。

刑事警察

事実を特定し、犯人を検挙する。

犯罪を捜査し、犯人を検挙して事件の真相を解明する。

犯罪検挙は、犯罪の抑止力を向上させる極めて重要な任務の一つです。窃盗事件や特殊詐欺事件など、事件の種類は様々で、一つとして同じ事件はありません。

目の前にある事件に向き合った時、先入観を持つことなく、現場で得られた情報で、今何が必要なのか、一つ一つ判断し、実行する。その積み重ねが警察としての捜査であり、事件を解決へ一歩ずつ近づけます。

事件を解決することが、被害者の無念を晴らす一助となり、掛けていただく「ありがとう」の言葉が、目の前にある新たな事件の解決に向けて足を進めます。

捜査活動

捜査とは、捜査機関が犯罪があると思料するときに、公訴の提起及びその遂行のため、犯人及び証拠を発見、収集、保全する手続のことを言います。

例えば届出のあった被害について、それがどの犯罪に該当するのか、犯人は誰か、動機は何か、犯行の手段方法は、それらを証明する証拠は何かなどを突き止めます。

警察官一人一人が、捜査官としての誇りを持って、現場での活動に当たります。

取調べ

事件の核心に迫る重要な捜査手法が取調べ。被疑者の人権に配慮し、適正手続の保障の下、被疑者から話を聞き、犯行の動機、共犯者や組織性の有無そして隠された証拠品の所在等、事件の真相を解明する中核を担います。

被疑者とのやり取りの中で、犯人しか知らないであろう「秘密の暴露」等を得て、現場の捜査だけでは分らなかったことが判明し、解決につながった事件も多々あります。

裏付け捜査（客観証拠の収集）

事件発生時には、迅速的確な初動捜査を行い、犯人を現場やその周辺で逮捕すること、又は現場の証拠物や聞き込み捜査による目撃者の証言等を確保することが、犯人の特定や犯罪を立証する上で重要です。

犯行を裏付ける客観的な証拠として、防犯カメラの映像があり、その映像を抽出し解析することが、犯人を特定する捜査活動の一つとして挙げられます。

組織犯罪等の根絶と来日外国人犯罪対策

複雑多様化する社会の変容に伴い、匿名・流動型の犯罪グループによる特殊詐欺や強盗等の事件が発生するなど、治安上の重大な脅威となっており、それら組織犯罪の根絶を図らなければなりません。

それら犯罪組織は犯行拠点を海外に置いたり、外国人犯罪組織が関与するなどボーダーレス化が進み、事件を解決するためには、外国人を相手とした取調べや外国の捜査機関との協力関係が必要であり、捜査活動は言葉や文化の壁を越えるスキルも求められています。



現場の声



強行・特殊犯主任

不撓不屈の精神で捜査を尽くす

刑事の仕事は、現場に残された些細な物や情報から犯人につながる証拠を探し出す地道な捜査活動の積み重ねです。県民の安全を脅かす犯罪に毅然と立ち向かい、仲間と共に証拠を集め、犯人を浮上させて事件を解決に導くことこそが、刑事の生きがいです。どんな困難を目の前にしても、決して諦めない気持ちと「私たちにしか被害者の無念は晴らせない」という思いを胸に秘め、日夜捜査を尽くしています。



鑑識主任

常に全力で現場に臨む 謙虚な姿勢を忘れない

私は、鑑識に憧れて警察官になりました。鑑識の仕事は現場が勝負です。いかに犯人の動きを分析し、証拠を発見・収集するかで結果が大きく変わります。様々な事件現場に臨みますが、一つとして同じ現場はありません。

現場では自分ができることを全力で、困難な場面でも諦めずに立ち向かうことで、スキルも磨かれるものだと感じています。まだまだ未熟ですが、人との出会いを大切にしたい、謙虚な姿勢で仕事に向かうことを心掛けています。

交通警察

歩行者に日本一やさしい山形県を目指して。



交通事故を無くすこと。

歩く人、車を運転する人、自転車に乗る人。すべての人が交通社会の一員である以上、我々は日々、交通安全の重要性を訴え続けます。

それは事故で大切な人を失った方を知っているから。命は助かっても体と心に傷を残した方を知っているから。

交通指導取締りは、そういった事故を起こす前に、運転の危うさに気付いてもらい明日の安全に目を向けてもらうこと。

交通事故捜査は、原因を追及し、自己の運転を悔い改めてもらうこと。

そして時には、現場に隠れた証拠を基に、逃げた犯人を見つけ出し、被害者の無念を晴らすこと。

交通警察は、様々な任務を通じ、みんなが「ただいま。」と家に帰れるよう、安全安心な交通社会の実現を目指しています。

交通事故防止のための交通指導取締り

山形県警察では年間約3万件、交通違反を検挙しています。

限られた人員で効果的かつ効率的な交通指導取締活動を推進するには、どこの道路で、どのような事故が多いのか、原因は何かなど過去の事故発生状況をよく分析することが重要とされています。また、制服警察官が運転者、歩行者の目に留まるようにパトロールを行うことで、交通違反の未然防止に努めることも必要なことです。



「交通安全ありがとう運動」の実践

山形県警察では歩行者事故防止対策として、「交通安全ありがとう運動」を推進しています。

横断歩道は、歩行者が最優先、運転者は歩行者を守りましょう。

歩行者は、道路を横断する際に手を挙げて、「渡ります」と車に意思表示をして、止まった車にお辞儀などで感謝の気持ちを伝えましょう。

この運動を通じ、止まってもらった子供たちは、将来、車を運転する際、歩行者にやさしいドライバーになる相乗効果が期待されます。

交通安全施設などによる交通規制

信号機や道路標識、横断歩道など、道路上には様々な交通安全施設がありますが、警察にはこれらを適切に設置・管理する任務があります。

これは車両や歩行者の通行すべき場所などを明示し、規制することで、両者が安全に通行できるような環境を整える働きがあり、交通の秩序を確立し、安全と円滑を図ることにつながります。

交通規制は、交通安全の実現の一翼を担うものとなりますが、望ましいのは、道路を利用する方が交通ルールへの理解を深め、遵守してもらうことにあります。また、警察の仕事として、事故の発生状況に応じて、既存の交通規制を見直すことも任務の一つであり、それが地域に合ったものになるよう努めるほか、住民の方々の意見を取り入れるなど、地域の声に耳を傾けることが必要とされています。

現場の声



隊員

「憧れ」から「責任」へ 安全で事故のない交通の実現に向けて

上司、同僚など多くの方々からの指導や支えがあり、現在、白バイ隊員として交通指導取締り、交通パトロールなどに従事しています。元々は白バイ隊員に強い憧れを抱き、警察官になった私ですが、勤務を通して、交通事故による被害者、被害者遺族を目の当たりにし、安全な交通の実現に向けて、自分の活動の重要性、責任の重さを感じています。交通事故防止活動に従事するに当たり、常に冷静であることを心掛け、私自身、安全な職務執行を行っています。



交通指導係員

重大事故につながる交通違反を撲滅し、 悲しむ県民を無くしたい

現在交通指導係2年目として勤務し、白バイ隊員を目指して奮闘中ですが、想像した以上に交通事故や飲酒運転などの悪質運転が多いことに驚いています。警察学校で死亡事故の遺族から受けた「事故のない社会をつくってください」という言葉を実現するため、日々安全を願う心で重大事故に直結する交通違反や悪質運転の取締りに従事し、事故のない山形を目指しています。

警備警察

いつもどおりの日常を守るために。



災害救助や治安維持に万全を尽くす。

警備警察が担う業務は、テロ・ゲリラなどの凶悪事件を未然に防ぐための情報収集、事件の捜査、要人の警護など、人命に直結するものが多くあります。

また、地震による大規模な土砂崩れや大雨による道路の冠水など、自然が引き起こす災害から最前線で人命救助を担う重要な部門を担います。

将来起こり得る様々なリスクに目を向け、前兆を見逃さず、迅速的確な対処により、いつもどおりの日常を守りとおす。

それが警備警察。

自然災害対策及び救助

近年、全国的に大規模な地震や豪雨などの自然災害が頻発し、山形県内でも、地盤の緩みによる土砂崩れや、大雨により最上川が氾濫する被害が発生したのは記憶に新しいところです。

災害から「自分の命」、そして「大切な人の命」を守るためには、日頃からの備えが大切です。

警備警察は、災害発生時における早期避難の重要性を広く呼び掛け、事業者への講話や自治体と連携した避難訓練等を企画・立案し、実施しています。災害発生時には、いち早く出動して現場の状況を確認し、タイムリーかつ正確な被害状況の把握に努めています。また、人命救助では、重機やベルトコンベアなどの装備資機材を活用して、行方不明者の捜索・救助活動に当たります。



警衛・警護

警察では、皇室と国民の親和に配慮した警衛警備を実施し、皇族の御身辺の安全確保と歓送迎者の雑踏等による事故防止を図っています。

また、国内外の要人の身辺を警護することで、公共の安全と秩序を維持する業務を担っています。

危機管理

テロ・ゲリラ等の国民の安全安心を脅かす凶悪事件等を未然に防止するための諸対策をはじめ、将来テロを行い公共の安全を害するおそれのある集団の早期発見も業務の一つです。

他国からの対日有害活動やテロリスト等の流入阻止を図るほか、日本独自の技術情報の流出防止などの経済安全保障対策にも当たっています。



現場の声

緊張感のある仕事でも常に冷静な対応を

警衛・警護の仕事は、皇族をはじめ国内外の要人の安全確保を目的としています。一昨年から要人に対する襲撃が頻発し、警衛・警護の現場は、一層緊張感が高まっています。

その反面、任務終了後は、要人を無事に護り抜いたという、何ものにも代え難い達成感を味わうことができます。警衛・警護の現場で要人に危険が迫った場合には、いち早く要人を護るために咄嗟の行動が求められますが、そのような状況でも常に冷静な対応ができるよう、普段から体を鍛え、現場に臨んでいます。



警衛・警護主任

仲間と連携し、一人でも多くの命を救いたい

機動隊で土砂災害現場や広域緊急救助隊を経験し、人命救助活動の大変さ、そして大切さを実感しました。災害現場では、人命に関わる場合が多く、時には自分自身の命の危険に直面する場合があります。そこで、一番大切になってくるのが、日頃からの訓練はもちろんのこと、部隊員間での連携力であると考えています。自分自身の命を預けられる関係を築くため、機動隊ではそれぞれを尊重し合うことに重きを置いています。



隊員

警務警察

県民の期待と信頼に応えるために。

すべての職員が、生き生きと働くことができるように。

安心して仕事に打ち込める環境を整備する。

県民の安全安心のため、治安向上を目的により良い組織をつくること、職員の教育や福利厚生の充実化、将来を見据えた健康管理など職員、そして組織のためになる仕事を通じて、山形県の安全安心に還元します。

また、警察組織には、警察官の現場での活動が円滑に遂行できるように行政事務によるサポートを通じて安全安心に携わる警察行政職という職種があり、警務部でも多くの警察行政職が活躍しています。詳しい紹介は警察行政職の採用案内をご覧ください。



組織の基盤を支える

部門を横断して、あらゆる警察活動をバックアップします。情勢に応じた組織運営を行うほか、ワークライフバランスの推進、女性の視点を反映した業務改善など、全ての職員が働きやすい環境づくりを行います。

人材育成

県民の安全安心を守る力強い警察であるため、柔・剣道、拳銃などの術科訓練や現場を想定した実戦的訓練、各部門の専門家を育成する研修、昇任時研修を実施し、人材育成に取り組んでいます。

留置管理

事件などで逮捕された被疑者を留置し、その処遇を適正に確保しながら、取調べや裁判の護送を行うなど、被疑者の人権に深く関わる仕事です。

被疑者の動静監視に目を光らせ、警察組織の「縁の下力持ち」として各種警察活動を支え、地域の安全安心に貢献します。

犯罪被害者支援

犯罪や不慮の事故に遭われた被害者やそのご家族は、様々な悩みや心配を抱えています。山形県警察では、犯罪被害者等に寄り添いながら、捜査状況の説明をはじめ、医療費の公費負担、カウンセリングによる心のケア、再被害防止のためのアドバイスなど、様々なニーズに応じたきめ細やかな被害者支援活動を行っています。



現場の声



デジタル化推進係長

業務のデジタル化を推進し、働きやすい勤務環境を整備する

警察業務の合理化・高度化を図るため、デジタル化施策を戦略的に推進する業務に就いています。現場で活躍する警察職員の目線に立ち、前例踏襲的な業務はないか、多方面にアンテナを張って情報収集を行っています。警察職員の業務の効率化を図ることは、県民の安全安心の確保につながりますので、できない理由を考える時間こそ無駄な業務であり、絶対に業務の改善を図る!という強い想いとチャレンジ精神を大切に業務に臨んでいます。



広報広聴主事

県民の目線に立ち、分かりやすい情報発信を

私は安全安心に関する情報を提供する広報の仕事をしており、具体的には、県警察のホームページ管理や広報素材の作成などを担当しています。

県民の皆さんに安心して暮らしてほしいという思いから、情報がタイムリーか、理解しやすい文章か、イラストや配色は効果的なものになっているかなどに気を付け、必要な事項を分かりやすくお伝えすることを常に心掛けています。

県民の目線に立ってお役に立てる情報は何かを考え、期待に応えられるような発信をしています。



U/I でやまがた 転職 でやまがた



署生活安全課
生活安全係員

民間企業から▶▶山形県警察へ

32歳。私が山形県警察を転職先として選び、採用試験を受験して合格した歳です。実は学生の時にも受験したのですが、結果が伴わず、民間企業の道へ進みました。それから12年、警察官として働く夢を捨てきれなかったことと、採用時年齢36歳まで受験資格のある山形県警察の受験について、その年齢を迎える前に再度挑戦したい思いがありました。そのことを家族に相談して応援してもらえたことも、再受験を考える私の背中を強く押してくれました。現在、民間企業を経たことが、警察官として自分の力となっていることを実感しています。経験してきた自分だからこそ、うまくできる仕事もあると実感しています。



署地域課
交番係員

大学卒業▶▶地元新潟から宮城の大学へ進学、そして山形県に移住

中学生の頃からしていた音楽の経験を仕事に生かせないか進路に迷った際に、南部三県警察音楽隊合同演奏会を見たことがきっかけで、警察官を目指しました。初めは、大学で慣れた宮城での就職を考えましたが、友人の勧めや生活したことのない場所で刺激を受けて仕事をしなかったこともあり、山形県警察を受験しました。採用された今は、地域警察官の仕事と併せて希望していた音楽隊の仕事にも携わることができています。山形県に住んで感じることは、ラーメンはもちろん、食べ物何でもおいしいことです。特に果物は山形に住んでからよく食べるようになりました。



署地域課
交番係員

Uターン▶▶山形県警察へ

私が山形県を離れてみて実感したことは、山形に居た時よりも、地元で話題に挙がることや報道されるニュースに関心を持つようになったことです。前職では東京の金融機関でお客様の資産管理に係る仕事に就いていたのですが、地元で特殊詐欺の被害が報道される度に、今の仕事のままでは自分の力では何ら解決できない無力さを感じていました。そこで自分が警察官になって安全安心を守りたいと思い、その気持ちが強かった場所はやはり地元の山形県でした。

働くための土台。

警察官の給与体系は、職種の特殊性から他の公務員と比べて高く設定されています。

※巡査に記載の年齢は採用時年齢です。



※上記グラフ内の数値には、右欄に記載の手当などは加味していません。

転勤と範囲

山形県警察では、主に年度の替わる時期に人事異動が行われています。これに当たり、例年職員に対して勤務希望の調査が実施されます。この結果は、必ずしも希望通りとなる訳ではありませんが、勤務地や業務への適性、家族事情等を人事異動に反映しています。

転勤の範囲は、山形県内にある警察施設 (警察署14署、本部執行隊5カ所) の全てにわたるほか、他県警や警察庁等へ出向の上、勤務する場合もあります。転勤を経て、自分の知らない土地で仕事することで、新たな出会いや発見があり、知見を広めることにつながります。

人口 1,008,775人

(令和6年12月1日現在)

観測最低最高気温 -17.4℃/39.7℃

(過去56年間の気象記録：山形県HP参照)

さくらんぼ収穫量 日本一 13,000t

(令和5年度出典：農林水産省「果樹生産出荷統計(第1報)」)

滝の数(落差5m以上) 日本一 230ヶ所

(平成元年度出典：環境省「第3回自然環境保全基礎調査」)

空気のきれいな都道府県 第1位

(令和3年度データ：山形県HP参照)

刑法検挙率 第1位 73.0%

(2022年犯罪統計)

県外出身の
警察職員 約80人

警察では、時間外勤務手当などの超過勤務により支給される手当のほか、職員の生活状況に即した手当、警察官ならではの特殊勤務に従事することで支給される手当が数多くあります。

▶ 扶養手当	配偶者	6,500円
	子供1人につき	10,000円
	(令和7年2月1日現在)	
▶ 通勤手当	通勤手段及び距離により変動	
	自動車利用の場合	
	2,500円～53,000円	
▶ 住居手当	家賃等契約金額により変動	
	上限28,000円	
▶ 寒冷地手当	11月～3月まで支給	
	扶養家族の状況により変動	
	8,200円、11,400円又は19,800円	
	※配属される地域により支給されない場合があります。	

以下は、警察官ならではの特殊勤務の実績に対して支給される手当の例(一部)です。

▶ 宿直手当	1回につき	7,400円
▶ 刑事作業手当	1日につき	560円
▶ 現場鑑識作業手当	〃	560円
▶ 交通捜査作業手当	〃	560円
▶ 警ら取締作業手当	〃	340円
▶ 山岳遭難救助作業手当	〃	630円
▶ 緊急呼出手当	1回につき	1,240円
▶ 警衛警護作業手当	要人警護1日につき	1,150円

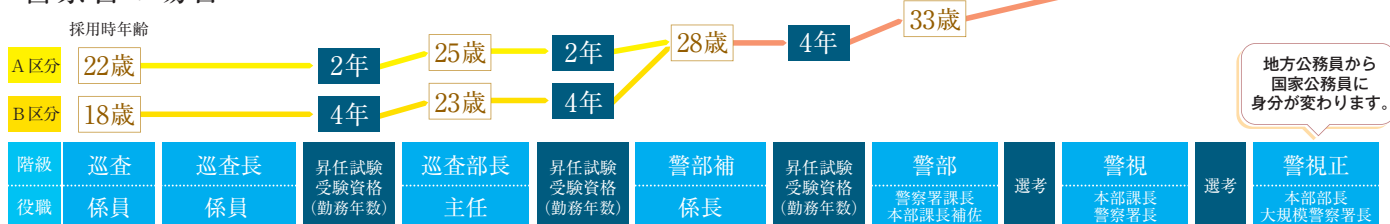
※以上の手当支給には一定の条件があります。

自分の目指すキャリアビジョンを実現するために

◆昇任制度

勤務実績や試験によって、性別、学歴に関係なく、本人の努力次第でキャリアアップの道が開かれています。下図は、最短で昇任試験に合格した場合の年齢の例です。

警察官の場合



警察行政職の場合



警察行政職の場合、採用時は主事として採用され、その後は勤続年数のほか能力主義により上位の職へ昇任することができます。

◆主な休暇

警察官及び警察行政職に共通する以下の制度が整備されています。職員一人一人が仕事と生活とのバランスを考慮し、最後まで安心して生活を送ることができます。

年次有給休暇

年間20日付与
残日数の翌年
繰越限度20日
最大40日取得可
※採用時付与15日

40日

夏季休暇

一定の期間、業務の都合などを考慮して自分で休暇を取得する日を決めます。

6日

その他、次の事由により、一定要件のもと取得できる休暇が制度として整えられています。

家族の看護 5日以内

子の養育 5日以内

妻の出産 3日以内

婚姻 7日以内

◆福利厚生

働きやすい環境整備はもちろん、山形県警察には私生活も充実できる制度があります。

- 職員専用アパート完備
- 資格取得の助成
- 育児・介護の助成
- 定期健康診断・人間ドック
- 余暇施設等の割引助成
- 給付・貸付制度の充実
- ライフプラン研修会の実施
- 警察共済・保険制度の充実

クラブ活動でリフレッシュ!!

山形県警では職員が有志でクラブ活動を行っています。実業団に所属していた職員も活躍しています。



県警サッカー部

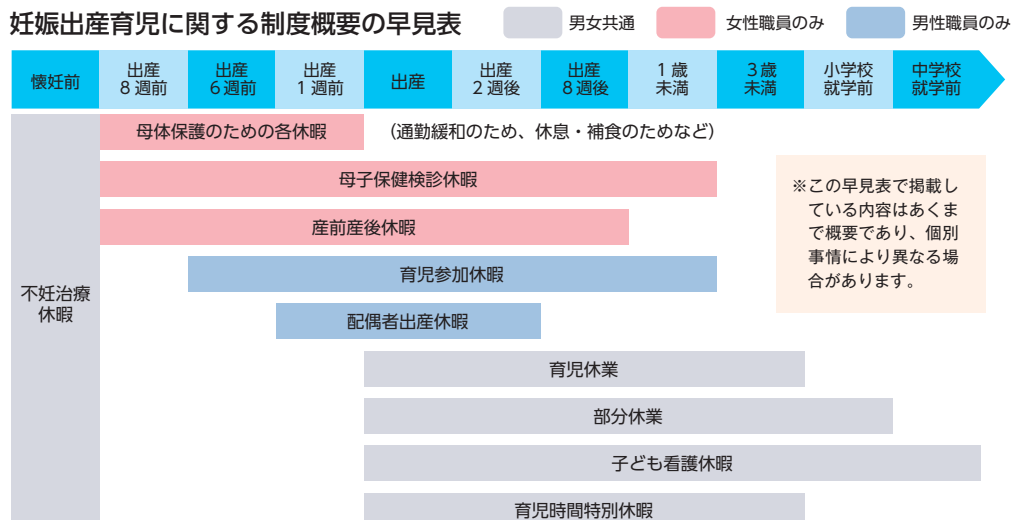


県警野球部

◆仕事と育児

山形県警察では、全ての職員が、生き生きと働くことのできる職場づくりに積極的に取り組んでいます。仕事と育児の両立に向けて、上記の休暇を含め、妊娠・出産・育児に関し下図の制度が利用できます。

妊娠出産育児に関する制度概要の早見表



女性職員
育児休業
取得率

100%

女性警察官
人数と割合

228名
(令和6年度 警察官全体の11.3%)

男性職員
育児休業
取得率

68.0%
(令和5年度)

男性職員の
配偶者出産休暇
育児参加休暇
5日以上取得率

84.5%
(令和6年5月末時点)

仕事も、プライベートも充実した毎日を。

育児との両立を!!



私は、学生の時に見かけた女性警察官の凛とした頼もしい姿に憧れを抱き、警察官を志し、今では2人の子供たちに恵まれました。

警察は多忙なイメージを持たれる方も多いと思いますが、実際のところ、子育てや休暇に関する福利厚生が充実しており、私が子育てを経てきた中で、頼りになる職場だと感じます。例えば私の場合、育児休業を取得し、復帰してからも子供の保育園への送迎に合わせて勤務時間を調整できたほか、子供が発熱した時には、急なお休みを取得するなどして、仕事と家庭の両方を大事にできました。

これから就職先を探す皆さんの立場を考えれば、「女性がずっと働ける職場なのか」「女性だからこそできる仕事があるのか」など抱く不安はあるかと思いますが、様々な部門で活躍し、仕事と家庭を両立している女性警察官がたくさんいます。

私自身も、山形県警察は、私を必要としてくれるやりがいのある職場だと感じています。

警察の職場はお互い様の組織です。これまで育児の面で支えてもらった分、次は誰かの支えになれるよう、仕事でお返しできればという気持ちで頑張っています。



警察官としてのキャリアも上を目指して



「誰かの役に立つ仕事がしたい」と考えていた大学時代、警察官になった大学の先輩から受験を勧められました。女性警察官を採用し始めたばかりと聞き、「前例がないので、自分で考えながら仕事ができるのでは」と考え受験し、女性警察官2期生として採用されました。

採用後は、交番勤務から始まり、主に生活安全課や刑事部門での事件捜査に携わり、現在は、女性初の捜査第二課次長として、これまでの経験をいかし、日々奮闘しています。家族や同僚等からの協力もあり、育児をしながらキャリアを積むことができました。

警察官には階級制度があり、昇任することで、自分の考えを仕事に反映できますし、男女関係なく誰もが持ち味をいかせる仕事だと、やりがいを感じています。また、近年、福利厚生が充実し、女性が働きやすい環境が整っています。

今後も、周囲への感謝の気持ちを忘れず、県民の安全安心のため、前向きにチャレンジしていきたいと思っています。（※これまで10年余り継続している華道もキャリアアップ中）



過去の採用試験情報

試験区分	令和4年度			令和5年度			令和6年度		
	受験者数	合格者数	倍率	受験者数	合格者数	倍率	受験者数	合格者数	倍率
警察官A(男性)	96	22	4.4	83	23	3.6	81	20	4.1
警察官A(女性)	28	8	3.5	29	7	4.1	36	6	6.0
警察官B(男性)	109	25	4.4	102	28	3.6	70	23	3.0
警察官B(女性)	39	10	3.9	27	8	3.4	40	12	3.3
警行(大卒)	25	4	6.3	13	2	6.5	19	4	4.8
警行(高卒)	50	9	5.6	52	6	8.7	40	15	2.7

採用時年齢
36歳未満まで
受験可能



山形県警察本部 警務課人事係
〒990-8577
山形県山形市松波2丁目8番1号

TEL 023-625-0871 (直通)
受付時間／8:30～17:15 (平日のみ)

山形県警察 採用 検索

一部、取材時の情報を掲載しています。



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。